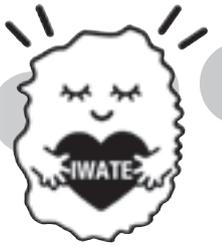


岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数／298名（2017.12.11 現在）

編 集 発 行／「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL：090-2604-7918 FAX：019-653-6447

郵便振替口座／02250-1-60580 E-mail／hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage（岩手ホスピスの会通信）／http://hospice.sakura.ne.jp/

No. **59**
2018年1月

盛岡友愛病院 ホスピスボランティア

11月24日14:30～15:00、岩手県盛岡市盛岡友愛病院西棟5F 緩和ケア病棟ティーラウンジにおいて、当会から7名参加してコーヒーサービスとうたごえコーラスを開催し、同院緩和ケア病棟の患者さん7名と付き添いのご家族が参加されました。

この日は購入した香り高いコーヒー豆をドリップし、参加者の方々に飲んでいただきました。

また、できるだけ自然に近い素材で体に優しい手作りの焼き菓子も持参し、楽しんでいただきました。

うたごえコーラスは「岩手ホスピスの会ボランティアグループ」として9名のコーラス隊とピアニストの猪俣陸奥子さんと組織され、懐かしい唱歌を次々に合唱し、患者さんも懐かしそうに一緒に口ずさみ手でリズムを取っておられました。

今回もこのような機会を設けていただき盛岡友愛病院緩和ケア病棟の曲木順子師長さんはじめ看護師の皆様、病棟スタッフの皆様に変にお世話になりました。今後も継続的に支援していきたいと思っております。



コーラス隊と集まった患者さん達



曲木師長さん(中央)を囲む当会ボランティア



患者さんと触れあう

当日参加された患者さんからメッセージを頂きました。

「ホスピスの会の皆様。なつかしい歌をたくさん聞かせて頂きました。すいぶん久しぶりに皆様と一緒に口ずさみ手をふりながら楽しませて頂きました。ありがとうございました。」



ピアニスト猪俣さん



看護師さん達

働き盛りのがん患者さんへの支援制度などについて

9月に開催された岩手県議会決算特別委員会において、議員さんからがん患者さんへの支援について2点質問がありました。

①がん患者さんを対象とする介護サービスや医療費助成制度について、40歳以上の患者さんには介護保険、20歳未満の患者さんには小児慢性特定疾患による支援制度がありますが、20歳から40歳未満の患者さんに対する法令に基づいた支援制度が現在はなく、一部の自治体ではこのことについて支援が始まっているのでぜひ岩手でも検討して欲しい。

②がんで長期入院している高校生への教育支援について、院内学級は義務教育が対象のため、長期入院している高校生の勉学の手段が閉ざされているのが実情であり、長期入院する高校生への公的な学習支援制度について、全国の自治体でここ数年具体的な支援の動きがあり、岩手でも検討の必要がある。

私たち岩手ホスピスの会は、この二点について岩手の患者さんにとり大変重要なことと考え、ぜひ県内の患者会でこの情報を共有し、他県の好事例を参考にしながら、可能であれば患者会で連携しこのことについて県の方に要望を出して行きたい、と考えております。現在、関係者への聞き取りを行い、現状把握と今後の方向性についての見極めに努めております。
(12ページ新聞記事参照)



岩手県議会

あんしん生命様よりタオル帽子が寄贈されました

11月2日、東京海上日動あんしん生命から当会にがん患者さんのためのタオル帽子1,374個、タオル930枚、寄付金61,014円が寄贈され、同社の東謙二人事務部長から当会に目録が手渡されました。

9年前より当会のタオル帽子活動に多大なるご支援をいただいているあんしん生命様にあらためて深く御礼を申し上げます。



あんしん生命と懇談

「岩手ホスピスの会」がん相談ホットライン



開設日	毎月第2土曜日 午後1時30分~4時(月により変更あり) 相談無料
場所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子サロン会場(月により変更あり)
内容	電話相談:がん全般についての相談に対応致します。 直接面談:上記会場に来院して頂き対応 ※事前にお電話いただければ、相談内容に合ったスタッフが対応致します。
問合せ	岩手ホスピスの会 090-2604-7918

盛岡二高生が病院にタオル帽子を贈る

12月5日、岩手県立盛岡第二高等学校1年C組の生徒さん40名が、脱毛に悩むがん患者さんをサポートするため自ら作成したタオル帽子を盛岡友愛病院に贈りました。

これは当会のタオル帽子活動に、盛岡二高の生徒さんが自分たちも参加したいと声を上げたことで実現しました。贈呈されたタオル帽子は9月5日に同校被服室においてタオル帽子ボランティアさんの指導で生徒さんたちが作成したものです。

贈呈式は盛岡友愛病院で行われ、同校家庭クラブの中島恵先生引率の元、家庭クラブ委員長・工藤早紀さん(2年)他3名が40個のタオル帽子を、同院緩和ケア病棟ホスピス医・藤井祐次先生らに手渡しました。帽子は同院において、脱毛に悩む入院患者に贈られます。

この日贈呈式に参加した生徒さんたちは、「ひと針ひと針丁寧に、患者さんが元気にそして笑顔

になってくれるように願って作りました。」「髪の毛が抜けてしまってすごく気分が落ち込んでしまうかもしれないんですけど、タオル帽子を使っていただいて笑顔で過ごせるように作りました。」などと話していました。

このように若い方たちが患者さんに寄り添う活動に取り組んでくれたことをホスピスの会として本当に嬉しく思います。

また、このような取り組みを認め快く受け入れてくれた盛岡友愛病院様にも感謝いたします。

今回のことをきっかけとして、この活動が二高生徒さんの手によって継続されていくことを岩手ホスピスの会ボランティア一同で願っております。

この日は当会からもタオル帽子ボランティアさんが参加し、同院の患者さんへのクリスマスプレゼントとして、ボランティアさんが縫い上げた50個のタオル帽子を寄贈しました。

(12ページ新聞記事参照)



工藤早紀さん(前列中央)と中島恵先生(前列右)



皆で縫いあげたタオル帽子を贈呈



友愛病院小暮理事長(左)と懇談するボランティアさん

お礼

2011年の東日本大震災以降、当会で継続している被災地支援活動に役立てると、今年も福岡県のエフコープ生活協同組合「エフコープ虹の会」様より30,000円のご寄付をいただきました。震災の記憶が風化する中で、遠く九州より変わらずご支援を継続していただいていることに深く感謝致します。

エフコープ生活協同組合：〒811-2495 福岡県糟屋郡篠栗町大字篠栗 4826-1

福岡県内の5つの地域生協(北九州市民生協、むなかた生協、福岡市民生協、筑豊市民生協、久留米市民生協)の合同によって組織される。組合員数481,400名(2017年3月末現在)

タオル帽子クリスマスプレゼント発送

抗がん剤の副作用による脱毛に悩む患者さんが少しでも笑顔になるようにと、今年で10年目となる、全国がん診療連携拠点病院へのクリスマスタオル帽子プレゼントの発送作業が2017年11月26日、盛岡市で行われました。

この日のためにご協力いただいた全国のタオル帽子制作ボランティアさん、東京海上日動あんしん生命様、内野株式会社様などに深く御礼申し上げます。(12ページ新聞記事参照)



ボランティアさんによる発送作業

タオル帽子クリスマスプレゼントを受け取って頂いた病院一覧

2017年12月(1件50個程度) 病院 36件 総数 2,720個

- 北海道 北海道がんセンター 岩手県 岩手医科大学附属病院 盛岡友愛病院 岩手県立胆沢病院 岩手県立中部病院 岩手県立中央病院 秋田県 大曲厚生医療センター 秋田赤十字病院
- 山形県 県立中央病院 宮城県 大崎市民病院 栃木県 佐野厚生総合病院 群馬県 公立藤岡総合病院
- 茨城県 茨城県立中央病院 東京都 同愛記念病院 神奈川県 小田原市立病院 新潟県 県立新発田病院
- 石川県 金沢医科大学病院 岐阜県 岐阜大学医学部附属病院 滋賀県 市立長浜病院 大阪府 大阪赤十字病院
- 兵庫県 兵庫医科大学病院 関西労災病院 広島県 福山市民病院 鳥取県 米子医療センター
- 岡山県 岡山赤十字病院 高梁中央病院 山口県 山口県立総合医療センター 周東総合病院 下関総合病院
- 愛媛県 愛媛県立中央病院 大分県 大分大学医学部附属病院 長崎県 長崎みなとメディカルセンター
- 熊本県 熊本大学医学部附属病院 済生会熊本病院 熊本赤十字病院 宮崎県 宮崎県立宮崎病院

岩手県患者・家族会情報交換会参加

岩手県保健福祉部医療政策室主催の、がん患者・家族会情報交換会は9月30日に盛岡市内で開催され、県内各地域のがん患者・家族会、がんサロン、県内のがん診療連携拠点病院等の医師、認定看護師など37名が参加しました。

はじめに、「がん治療における歯科連携の役割について。口腔ケアの推進」と題して、岩手県歯科医師会・佐藤保会長が、「がん治療における医科歯科連携の意義」、「口腔ケアががん治療にどのように役立つのか」、などについて、地域におけるがん患者支援体制についてをテーマに、県立久慈病院 安達奉国・主任医療社会事業士、県立胆沢病院 中村由佳・医療社会事業士がそれぞれ講演しました。

この日は白澤勉・岩手県議会議員が交換会を傍聴し、患者会の声に耳を傾けました。当会は患者サロン活動やホスピスボランティア活動など10万円以下の経費が必要な活動にも活用できる助成金はないのか質問しましたが、明確な答えは得られませんでした。(患者会活動で活用しているいきいき岩手助成金は経費10万円以上の活動でなければ助成できない規定となっている)



白澤勉議員(右から2人目)と当会役員

岩手県がん対策推進協議会参加レポート

第22回岩手県がん対策推進協議会は11月16日盛岡市内で開催され、県により作成された次期第3次岩手県がん対策推進計画中間案について委員間で検討が行われました。

会議を傍聴した一般の方は5名、報道関係者は4名でした。



第22回 岩手県がん対策推進協議会

次期第3次岩手県がん対策推進計画について当会は、役員会で話し合ったことを集約し、「①苦痛のスクリーニングを県内拠点病院はもちろんすべての医療機関で周知し実施して欲しい②緩和ケアについての情報がまだ乏しい。様々な媒体を通して県による緩和ケアに関する情報発信の強化が必要③超高齢社会を迎え、高齢者施設での最期の看取りが急増しており、介護職スタッフに見取りのスキルアップのため緩和ケア研修を行って欲しい④東日本大震災の被災地域を含む県北部沿岸部の医療の推進と、これらの地域に緩和ケア体制の整備を」と意見を述べました。

また、昨年続き今回もがん対策推進協議会に外部専門部会であり下部組織として、部会或いはワーキング部会設置の検討をお願いしました。

千葉県、滋賀県、奈良県、大阪府、徳島県などのがん対策推進協議会には、緩和ケア部会他各分野別にいくつかの部会が設置されており、各分野の課題について具体的に検討して、上部組織であるがん対策推進協議会がその検討結果を受けて、がん対策策定の参考にしております。先月東京で開催された「がん政策サミット」でこれらの県の患者関係委員にお会いし、現状を聞くことが出来ましたが、皆さんが「様々なテーマについて検討して行く際に部会はなくしてはならないもの」と話しておられました。部会設置のお願いについては協議会議長の小原紀彰委員も「何度も要望が出ていますので、そろそろ県の方でも検討してはいかがでしょうか」と助言しました。

その他会議では各委員から、●県のホームページが見つらいので他県の例を参考にしては。●AYA世代などの語句は一般の方にわかるように表記すべき。●がん教育はそれを受けた子供たちが親にがん検診を勧めるなどの二次的効果がある。などの意見が出されました。

次期がん対策推進計画策定に関わる今後のスケジュール

◆パブリックコメント(2017年12月20日(水)から2018年1月22日(月)まで、別紙参照)、第23回協議会(2018年1月31日)⇒次期がん対策推進計画最終案を2017年度中に県議会へ上程

※パブリックコメント:行政が規制の設定をする際、原案を公表し、県民の意見を求め、それを考慮して決定する制度。この制度を活用して皆さんのがん対策への意見を県に送って下さい。

「第15回 がん政策サミット 2017秋」に参加!

全国各県のがん対策推進協議会より患者委員が一堂に会し、各県のがん対策が適切に進められることを目標に学び合う「がん政策サミット 2017 秋」が10月6～8日の3日間東京都内で開催され、当会も岩手県がん対策推進協議会の患者委員として参加しました。



第15回 がん政策サミット 2017 秋

このサミットは、医療政策機構が主体となり2009年から年2回開催されており、今回は全国から45人の患者関係者、全国の行政担当者21人、県議会議員1人、各県の医療提供者11人等々総勢79人が参加しました。

東北6県からは岩手・患者関係者2名(当会より)、秋田・医療提供者1名のみで、東北からの参加者が少ないのが目立ちました。

サミットでは、来春出そろう47都道府県のがん計画の均てん化が実現し、真に患者さんのため、国民の健康のためのがん対策が実行されることを目指して、がんの手術療法、がんの薬物療法、放射線療法、緩和ケア、ゲノム医療一等各分野の専門家の講演を聞きながら、患者家族・医療現場・地域に成果をもたらす次期がん計画を考えました。

また、分野別講演終了後、情報交換会に参加し、他県の患者会と交流しました。

今回当会ではふたつのテーマを持ってサミットに参加しました。ひとつは患者会、行政、医療提供者が緊密な連携を保つ(三位一体と呼ぶそうです)奈良県の参加者にお話を聞いて自県の参考にすること。

今回参加されたあけぼの奈良代表の吉岡敏子さん、奈良県医療政策部保健予防課がん対策係長の大井久美子さんにお話を聞き、なぜ奈良県が全国レベルでがん対策の先進県になったかを伺いました。ふたつめは、どうして岩手のがん対策推進協議会にはワーキング部会(下部構成組織)がないのか、という疑問について他県のご意見を伺いました。

アドバイスをいただいたのは千葉県、滋賀県、徳島県、奈良県、大阪市の患者会の皆さん。これらの県の協議会にはすべてワーキング部会があり、多くの方々が「ワーキング部会がなくてどうやって協議会を運営しているのか不思議だ」と話していました。皆さんの話を聞いて改めて、「ワーキング部会は必要」という思いを強くして帰って来ました。岩手の患者さんの声を少しでも協議会に反映されるように、ワーキング部会の設置を考えていきたいと思えます。



がん政策サミット 植岡健一理事長(右)
奈良県医療政策部大井久美子がん対策係長(左)

特定非営利活動法人がん政策サミット：〒155-0032 東京都世田谷区代沢 5-34-14 片桐ハイツ 101 号室
TEL：080-3257-2354 FAX：03-6453-4368

がん患者さんのための栄養講座 パート 23

岩手県立胆沢病院 がん病態栄養専門管理栄養士

蛇口 真理子

新年を迎えましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？

毎年、冬になると、去年のことは忘れて、「今年は寒いね」と栄養相談にいらっしゃる患者さんへ話してしまいます。実際、去年の冬がどうだったのかはもう思い出せませんが…(笑)。

今回は、胃の切除後のお食事について紹介します。胃の手術後の患者さんから「〇〇はいつから食べていいですか？」という質問をよく受けます。10年前くらいまでの栄養食事指導では「揚げ物は、術後、半年後くらいから少量ずつ」などとお話をしていましたが、現在は、「よく噛めば何を食べても良い。術後、初めて食べるものは少量ずつ」と栄養食事指導の内容も変わってきています。

私は、胃の術後の患者さんへは、「食べたい時が食べ時」とお話をしています。揚げ物のかおりがした時やケーキをみて、「おいしそう」と思うことが出来たら、「そこまで体が回復してきたよ」と体自身が教えてくれているのです。「食べたいな」と思ったら、少量(自分の親指1本)程度から始めてみて、大丈夫なら少しずつ量を増やしながら食べていきましょう。もし、食べてみて胸焼けや下痢があった場合は、1～2週間空けて、再度挑戦してみてください。味わって食べることを楽しみながら、体力を回復していきましょう。



★胃切後も食べられる 安心ナポリタン (1人前 304 kcal)



材料(1人前)	分量
マカロニ(乾燥)	50g
ツナ缶(スープ煮)	1/2 缶
玉葱	1/6 個
ケチャップ	大さじ 1.5
ウスターソース	小さじ 1
コンソメ	少々
オリーブ油	小さじ 1
粉チーズ	お好みで

作り方

- ① 鍋に水を入れマカロニをお好みの硬さに茹でる。
- ② 茹であがったマカロニはざるで水気をきる。
- ③ 玉葱は薄くスライスしておく。
- ④ ツナ缶は汁気をきっておく。
- ⑤ フライパンに分量のオリーブ油をいれ、玉葱をしんなりするまで炒め、ツナを加え、さらに炒める。
- ⑥ ⑤へ②のマカロニを加え、炒める。全体に柔らかくなったら、分量のケチャップ、ウスターソースを入れ、炒め、コンソメで味を調える。全体的に味がなじんだら、出来上がり。

お好みで粉チーズをかけてお召し上がりください。



麺はすすって食べてしまい、噛むことが難しいという方にオススメ。マカロニやペンネに変えることで、よく噛んで食べることになり、早食い防止になります。体調に合わせて、マカロニはゆで時間を規定時間より長くすることで柔らかくなります。

参考文献：がん研有明病院の胃がん治療に向き合う食事 女子栄養大学出版

岩手県内各ホスピス現況

(岩手ホスピスの会調べ)

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	盛岡友愛病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	盛岡市永井 12-10
電 話	019-656-2888 医療福祉相談室	019-637-3111 (代表) 緩和ケア相談室 内線 338	019-638-2222
病 床 数	10 床	22 床 (全室個室)	18 床
ベ ッ ド	無料個室 8 床 有料個室 2 床	無料 12 室 有料 10 室	個室 10 床のうち 9 床が有料 4 床室無料
ベ ッ ド 料	1 日 3,240 円	1 日 5,400 円・10,800 円	1 日 5,400 円
看 護 師 数	16 名	21 名 + 看護補助者 2 名	16 名 + 補助 4 名
ホ ス ピ ス 医	米山幸宏先生	旭博史先生、畠山元先生	藤井祐次先生
看 護 師 長	白澤美代子さん	高橋節子さん	曲木順子さん
入 院 審 査 を 受 け る に は	医療福祉相談室にご相談ください。	緩和ケア相談室へお問い合わせください。 月～金曜 9:00～16:00	医療相談室まで。 019-638-2222 (代表) 月～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:30
審 査 日	随時	随時	週 2 回を予定
ホ ス ピ ス 入 院 平 均 待 機 者 数	0～2 名	0	4～5 名
ホ ス ピ ス 入 院 平 均 待 機 期 間	状況により数日～2 週間 重症者優先	外来受診後、平均 5 日	個室は 1～2 週間程度 大部屋 希望の場合は 1～数週間程度 (大部屋は希望が多いため、患者さんの意向を確認後、一般病棟で待機する場合があります)
利 用 者 内 訳	盛岡市周辺がほとんど (8 割以上)	盛岡市周辺の方がほとんど	盛岡市周辺の方がほとんど
緩 和 ケ ア 外 来	診察日：月～水・金・土 8:30～17:15 木 8:30～12:30 担当医：米山幸宏先生	診察日：月・火・水、要予約 担当医：旭博史先生・ 畠山元先生	開設未定
ホ ス ピ ス ボ ラ ン テ ィ ア の 人 数 と 活 動	登録者 24 名 実働 7～8 名 ホスピスボランティア募集中 019-656-2888	病院ボランティア登録者 25 名。 うち 23 名がホスピスで活動中。	年 1 回程度イベント時活動
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	名称：ひだまりの会 年 2 回開催 連絡先：緩和ケア病棟 白澤	ハナミズキの会 緩和ケア病棟 年 1 回開催	設置未定
入 院 料	定額制 (3 段階…診療報酬上の緩和ケア 病棟入院料に準じます) 保険適用	定額制です。 入院日数によって 3 段階での 算定です。	定額制。入院期間により 3 段階。 患者さんの自己負担額は加入し ている保険等により異なる。 各種医療保険適用、医療費の他 に食事代別途徴収。
ペ ッ ト の 同 伴		面会は可能。宿泊や飼育は不可	面会のみ可能。条件あり。 要申請。
麻 酔 医 と 携 の 連 携	なし	硬膜外ブロックなどを行う場合な どに連携あり。	なし

(2017年12月現在)

詳細は各病院に直接お問合せ下さい)

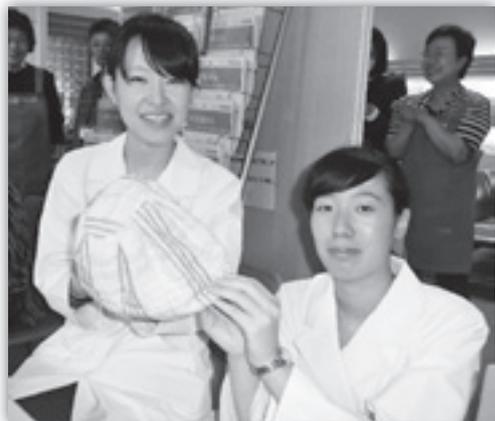
岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
一関市狐禅寺字大平 17 番地	北上市村崎野 17 地割 10 番地	奥州市水沢区羽田町字水無沢 495-2
0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
24 床 (個室 20、2 床室 2)	24 床 (個室 18、2 床室 3)	20 床 (全室個室)
無料 17 床 有料 7 床	有料個室 10 床、無料室 14 床	無料 20 室
1 日 3,130 ~ 6,370 円	1 日 3,240 ~ 13,180 円	無料
17 名	17 名 + 補助 3 名	17 名 + ケースワーカー 1 名 + 看護補助者 5 名
平野拓司先生	星野彰先生、桐生幸生先生、平賀一陽先生	及川司先生
和泉美奈子さん	菊池恵美子さん	小林洋子さん
0191-23-3452 (入院相談等) がん相談支援センター 相談時間：平日 9:00 ~ 16:00	0197-71-1511 (入院相談他) がん相談支援室 相談時間：平日 9:00 ~ 16:00	入院相談 (担当：ケースワーカー) 後面談 入退院検討会 (医師、薬剤師、栄養士、看護師、理学療法士で構成)
随時	随時	随時 (その後ベッドが空くまで待機)
0	3 ~ 4 名	0
1 ~ 2 日	待機期間は同院一般病棟や近隣の病院、連携のとれている訪問診療で対応	0
一関市周辺や宮城県北の方がほとんど	花巻北上周辺の方が 8 割以上。その他は奥州、盛岡等	奥州市周辺の方がほとんど
診察日：月～金、要予約 担当医：平野拓司先生	診察日：月～金の午前、要予約 担当医：星野彰先生	診察日：水、要予約 担当医：及川司先生
ボランティアコーディネーター 2 名、ボランティア 12 名 活動：ティータイム、季節の行事、がん患者サロン (こころば)	登録者 50 名。 活動内容：お茶会・歌っこの会・アロマ・生け花・季節のイベント企画	現在登録者 5 名で活動中。 ホスピスボランティアを随時募集中
偲ぶ会 (連絡先：緩和ケア病棟) 当院緩和ケア病棟でお亡くなりになった方のご遺族の方のみ 年 1 回開催	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟でお亡くなりになった方のご遺族の方のみ 年 1 回開催	しちせき 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟でお亡くなりになった方のご遺族の方のみ これまでに 4 回開催
定額制 (入院期間により 3 段階) ただし、定額に含まれない加算や有料個室の料金等は別途追加になります。	定額制 (入院期間により 3 段階) ただし、定額に含まれない加算や有料個室の料金等は別途追加になります。	定額制 (マルメ)。3 段階になります。
一時的な面会のみ可能	面会可能。宿泊不可	面会可能。宿泊不可
なし	院内ペインクリニックと連携	麻酔医が非常勤なので頻度は少ない。

岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2017年10月～12月)

当会のタオル帽子を受け取った全国の皆さんから当会に寄せられたメッセージの一部をご紹介します。2008年6月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで85,445個に上っています。帽子を作るボランティアの皆さんに深く感謝申し上げます。



*入院してたところ、看護助手の方から紹介してもらい手作りの帽子を一つ頂いて帰りました。遠く離れた岩手の方の心のこもった物、本当にありがとうございました。まさか私のこの髪の毛がなくなって坊主頭…?子供たちに見せたら驚いていました。この岩手ホスピスの会のパンフレットを見て、すごい活動をされているんだなあ…って。皆さんのこの活動が患者さんの心の支えになること信じています。(広島県)



病院スタッフの方々もタオル帽子を作成
(10月10日胆沢病院)

*10月23日から抗がん剤治療を始めた者です。11月初めから髪が抜け始め、予想外だったのは頭皮が痛かったことです。帽子をかぶると痛く日本手ぬぐいを巻いていました。そんな時病院でタオル帽子を頂きました。柔らかくて頭をすっぽり包み込んでくれる安心感。嬉しくて救われた思いです。告知の時は絶望感しかありませんでしたが、今はがんと闘い「生きる」と決意しております。来年は娘の結婚式があります。希望をサポートして下さいありがとうございます。(広島県)



フェイスタオルご寄付のお願い

皆様にお願ひ申し上げます。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルが不足しております。できましたらご寄付のご協力をお願いいたします。どのようなものでも構いません。ご家庭で眠っているタオルがありましたらぜひお送りください。

〈送付先〉 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町13-31 岩手ホスピスの会宛

タオル帽子を作りたい方へ

※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。申し込み方法：はがきかメールで。

※メールアドレス：hospice@eins.rnac.ne.jp

はがき：〒031-0823 青森県八戸市湊高台6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」

これからのタオル帽子講習会・サロン日程

○2月10日：タオル帽子講習会・サロン ○3月10日：タオル帽子講習会・サロン

●場所：盛岡市総合福祉センター

●開催時間：午後1時30分から ●問い合わせ先：080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願ひます。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。

***** 岩手ホスピスの会活動日誌 *****

2017年10月～12月

- 10月7～8日 第15回がん政策サミット 2017秋「患者家族・医療現場・地域に成果をもたらす次期計画に上げるために」参加 …(東京・九段下ベルーサー九段、2名)
- 10月10日 岩手県立胆沢病院医療情報コーナーイベント「タオル帽子をつくろう」に講師派遣 …(岩手県立胆沢病院、4名)
- 10月14日 第9回役員会・通信発送作業
……………(盛岡市総合福祉センター、12名)
- 10月21日 タオル帽子サロン・講習会
……………(盛岡市総合福祉センター、20名)
- 10月28日 タオル帽子チャリティーバザー ……………(滝沢市土日ジャンボ市、6名)
- 10月29日 タオル帽子倉庫作業 ……………(盛岡市タオル帽子倉庫、5名)
- 11月 2日 あんしん生命タオル帽子贈呈式……………(盛岡市総合福祉センター、13名)
- 11月 4日 タオル帽子倉庫作業 ……………(盛岡市タオル帽子倉庫、5名)
- 11月11日 第10回役員会……………(盛岡市総合福祉センター、6名)
- 11月16日 第22回岩手県がん対策推進協議会参加 ……………(盛岡市勤労福祉会館、4名)
- 11月18日 タオル帽子サロン・講習会……………(盛岡市総合福祉センター、23名)
- 11月24日 盛岡友愛病院緩和ケア病棟ティーラウンジにてホスピスボランティア活動
……………(盛岡友愛病院、7名)



二高タオル帽子講習会(9月5日)



「タオル帽子をつくろう」(10月10日)

- 11月25日 タオル帽子チャリティーバザー (滝沢市土日ジャンボ市、5名)
- 11月26日 全国のがん診療連携拠点病院へ向けタオル帽子クリスマスプレゼント発送作業 ……………(盛岡市タオル帽子倉庫、3名)
- 11月28日 入院中の高校生の訪問授業実現に向けた課題について患者会・有識者間で情報交換 ……………(盛岡市内、4名)
- 12月 5日 盛岡二高より作製したタオル帽子を盛岡友愛病院に贈呈
……………(盛岡友愛病院、4名)
- 岩手県保健福祉部医療政策室訪問 ……………(岩手県庁、2名)
- 12月 9日 第11回役員会～タオル帽子サロン・講習会
……………(盛岡市総合福祉センター、22名)

新年度会費の納入をお願いいたします。

岩手ホスピスの会は皆さんの会費により運営されております。2018年度会費(2018年1月～2018年12月分)を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上振込をお願いいたします。
 なお、行き違いですすでにお支払いいただいております折は、なにとぞご容赦ください。
 また、ご住所の変更があった方はお手数ですがご連絡をお願いします。
 会費：1,000円(複数口可) 郵便振替：02250-1-60580 岩手ホスピスの会

お詫び：前号の県内各ホスピス現況の内容に一部誤りがあり、各ホスピスご担当者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。誠に申し訳ありませんでした。今後このようなことの無いよう、気を付けて参りたいと思います。

タオル帽子 1300個寄贈 東京海上自動あんしん生命

東京海上自動あんしん生命(中里吉巳社長、本社東京)は2日、岩手ホスピスの会(川守田裕司代表)に、がん患者のためのタオル帽子1374個とタオル930枚、寄付金6万1014円を寄贈した。盛岡市若園町の市総合福祉センターで開かれた寄贈式には、同社の役員ら8人と同会のボランティア8人が参加。同社の東謙二人事務部長が川守田代表に目録を手渡した。タオル帽子は、抗がん剤治療などで脱毛する患者のための帽子。同社は9年前から社会



東京海上自動あんしん生命から寄贈された約1千個のタオル帽子を前に記念撮影する関係者

貢献活動の一環とし、同会に贈っている。て、全国の支店や代理店に呼び掛け、社員や家族が手縫いしたものまをがんから守る取り組みの支えになる。活動を継続していく大変さは身に染みて分かる。今後ともぜひよろしくお願したい」と感謝した。

組にも力を入れていく。グループ社員が一针、一针心を込めて作った。活用いたなき、安心して治療に当たってもらえればうれしい」とあいさつした。

同会の吉島美喜子事務局長は「患者にとって治療に前向きに取り組む心の支えになる。活動を継続していく大変さは身に染みて分かる。今後ともぜひよろしくお願したい」と感謝した。タオル帽子の活動は2008年6月に開始。09年からは全国のがん診療連携拠点病院へ年2回、発送している。これまでに発送した帽子は7万9千個。今年も12月に、同社寄贈の帽子を含め計4千個を発送する。

盛岡タイムス
2017年11月5日掲載

若い患者支援意欲

〇〇岩手ホスピスの会の川守田裕司代表は、このほど盛岡市内で開かれた県がん対策推進協議会に委員として出席。20歳以上40歳未満の患者に対して法令に基づいた支援制度がないこと、がんで長期入院している高校生の勉学の手段が閉

とく スポット

ざされていることについて発言した。県議会9月定例会で指摘があったこれら2点について「働く世代や高校生など、若いがん患者への支援は重要」と強調する。今後は関係者に話を聞くなどして、さらに課題を探っていく。「県内の患者会でも情報を共有し、可能であれば連携して県に要望していきたい」と方針を語る。

岩手日報
2017年11月22日掲載



手作りのタオル帽子を盛岡友愛病院へ贈った盛岡二高の生徒(左側)

盛岡二高 がん闘病 寄り添う帽子 生徒手作り、病院に寄贈

盛岡 盛岡市の盛岡二高(熊谷拓也校長、生徒593人)は5日、がん患者のために手作りしたタオル帽子40個を盛岡友愛病院(小喜信人理事長)に初めて贈った。贈呈式を同市永井の同病院で行い、同校家庭クラブの工藤早紀委員長(2年)、舞良菜緒子副委員長(同)、田中杏依さん(1年)、北田佳乃さん(同)が医師や看護師に手渡した。がん患者やその家族を支援する岩手ホスピスの会(川守田裕司代表)は9月、同校でタオル帽子作製講習会を初めて開き、生徒40人が1個ずつ作った。工藤委員長は「頭に直接触れるので糸が出ないように気を配った。自分が作った帽子が少しでも患者さんの心の助けになればうれしい」と語る。同会はこれまでも同病院にタオル帽子を寄贈しており、外来化学療法担当看護師の山本幸恵さんは「ウィッグ(かつら)は高額なこともあり、気軽に使える帽子は患者さんに好評」と感謝。小喜理事長は「高校生が医療に関心を持つきっかけになればいい」と願う。

岩手日報 2017年12月6日掲載